

不登校・ひきこもり状態にある方に対する支援従事者研修と地域ネットワークの拡大に関する取り組み

児嶋 亮 ●京都府作業療法士会 ひきこもり支援OTチーム 作業療法士



ひきこもり学会内のダイアログの様子

地域医療貢献のポイント

不登校・ひきこもりへの支援には生物学、心理学、社会学的視点が必要であり、それらを理論背景に持つ作業療法士(以下OT)の育成とひきこもり支援体系への参画増により、当事者および家族、支援者への支援の充足に寄与する。

1. 背景と目的

日本における不登校は推計42万人、ひきこもりは推計146万人と言われ、関連性についても示唆されている。不登校、ひきこもりは共に状態像であり、背景には社会的要因、生活要因、個人的要因が存在し、その支援には生物学的、心理学的、社会学的視点が必要となるが、それらを踏まえた医療専門職の介入はいまだ不足している状況にある。

OTはリハビリ専門職であり、生きづらさを持つ当事者の社会参加支援を実践しているものの、医療につながっていない当事者への支援例は少なく、不登校、ひきこもり支援に関する支援者教育の体系的な実施には至っていない。そこで京都府作業療法士会ひきこもり支援OTチームにて、ひきこもりに対する支援、地域活動支援、ネットワークづくりへの参画に加え、全国OTの学びの機会を実施し、予防的観点で活動を継続し

ている。今回はこれまでのひきこもり支援に不登校支援を加え、不登校・ひきこもり支援に精通したOTの育成を継続しつつ、不登校・ひきこもり支援者と連携し、支援者同士がつながり、分野を超えたネットワークの拡大と、その学びとネットワークを全国に波及させたいと考える。

2. 取り組みの方法

- ひきこもり支援団体が運営する居場所の運営補助
- ネットワーク会議や地域のひきこもり支援会への参加および運営補助と助言
- 地域の活性化とひきこもり支援を目的としたマルシェの運営補助と助言
- 不登校・ひきこもり支援者向けの研修会や交流会の参画および企画
- 全国の不登校およびひきこもり支援をテーマとした学会主催

3. 期待される成果

- 地域活動において、医療的な観点からの助言とサポートを提供
- 不登校・ひきこもり支援に従事する行政および支援団体職員のメンタルヘルスへ対応
- 不登校・ひきこもり者への早期介入と長期化の予防
- 精神疾患の早期介入、早期治療により心身機能および社会機能の低下予防
- 地域住民への不登校・ひきこもり支援の啓発による支援の選択肢の拡大
- 医療における精神科リハビリテーションに従事するOTの不登校・ひきこもり支援の知識技術のアップデート
- 全国の多様な支援と京都の不登校・ひきこもり支援を共有することによる全国の不登校・ひきこもり支援のアップデート